

座談会 イナガキさんと話そう

10・20(fri)



富山の魅力を全国に発信している人気フォトグラファーイナガキキャストさんをお招きしサポートクラブ会員企業の職員の方と入居学生限定の座談会を開催しました。この座談会は参加者が思う「# 富山の本気」をテーマに参加者が撮影した写真をプロジェクターに投影し、鑑賞しながらイナガキキャストさんや他の参加者とコミュニケーションを図るものです。「自分の写真をプロの写真家に見てもらう機会は初めて」「他の参加者の人生のエピソードまで聞けてとても参考になった」などの声が聞かれ、初めての経験や多世代との交流を楽しめたようです。

イナガキキャスト (フォトグラファー) プロフィール>>>

1981年生まれ、富山在住。富山県内を中心としたさまざまな風景や、家族の写真をSNSで発信し、話題となっている。KNB北日本放送「眺めのいい時間」/NHK富山「イナガキキャストの本気旅」/Xperiaアンバサダー/射水市公式フォトアンバサダー/富山県警察フォトアンバサダーなど。受賞歴多数。

土地活用モデル大賞 都市みらい推進機構理事長賞を受賞



fil入居者の皆様、サポートクラブ会員の皆様を始め、関係各位の皆様のおかげで、令和5年10月25日に土地活用モデル大賞「都市みらい推進機構理事長賞」を受賞いたしました。この賞は国土交通大臣賞に次ぐ大変栄えのある賞となります。土地活用モデル大賞は、土地の有効活用や適切な維持管理に取り組む模範的事例、成功モデルとなる事例を募集し、優れたものについて表彰を行い、優れた土地活用事例を全国的に紹介し、普及を図ることを目的に実施するものです。「filプロジェクト」の評価ポイントは、以下のとおりでした。



▶まちづくり会社が「学」と「民」の交流・連携を促すハード・ソフトのまちづくりを一体的に進め、まちの「人」と「コト」を「紡」いで中心市街地の賑わい再構築を先導。

▶県外出身の学生が富山との関わりが希薄なまま富山を離れてしまうという課題を踏まえた学生シェアハウスの用途に着眼し、中心市街地の低未利用地（施設）を入居学生に公共交通利用を促す仕組み等とセットで有効活用。

▶県外出身大学生等にまちに住んでもらい、地域の企業のサポート（路面電車、シェアサイクル、スポーツクラブの割引等）により、継続的な関係人口の増加に貢献。

編集後記

7月7日にfilがグランドオープンし、また新入生も富山の生活に慣れてきたこともあるからか、いろんな活動や交流の機会に参加する学生が増えてきました。9月からスタートしたmeet@filでは企業のトップの方々にご参加いただき、行動の原動力やオフィシャルの場ではなかなか聞けないお話しなどをお伺いしています。お忙しい中お時間を作っていただき本当に感謝申し上げます。学生からも大変好評なのはもちろんなのですが、私自身にとっても大変貴重な時間となっております。また、filの事業が土地活用モデル大賞を受賞したり、とある雑誌の取材を受けたり、講演？のようなことをする機会をいただいたり、教育研修旅行で県外の中学生在が訪れてくれたりと、多方面に情報を発信する機会が増えました。

fil 管理活用グループ 永井 慎



株式会社 富山市民プラザ  
〒930-0028 富山県富山市荒町 5-5 TEL : 076-464-3936 FAX : 076-464-3937  
MAIL : fil-share@simiplaza.co.jp

# fil 通信

2nd number  
VOL.2  
2023. 11



富山市長 藤井 裕久

本市では、将来にわたって持続可能な都市経営に向け、「公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくり」を政策の基本に据え、その柱の一つに中心市街地の活性化を掲げております。令和4年度からスタートいたしました第4期「富山市中心市街地活性化基本計画」において、このまちなか価値創造施設「fil」を「商業・賑わいの再生による活力ある歩きたくなるまち」を実現するための事業の一つとして位置付けさせていただき、中心市街地に存在することにより、商店街と学生の交流が促進され、まちなかの賑わいの創出につなげることで、持続的な中心商店街の活性化に寄与されるものとして、整備に対して支援を行った次第であります。

まちなか価値創造施設「fil」は、中心市街地の既存ストックである空きビルを改装し、これまで中心商店街になかった学生と商店街が日常的に交流できる場所、学生がまちなかで暮らす拠点をつくることを目的に整備されました。本市といたしましては、商店街の多様な機能の活性化と地域の持続的発展に向け、商店街と学生の交流だけでなく、商店街を取り巻く顧客の属性・消費動向の調査分析をしていただく等、地域住民・地域企業・地元大学と積極的に連携を図り、これからのまちづくりに活かされることを大いに期待しております。また、入居されている学生の皆様は、まちなかの活動や賑わいづくりに強い関心を持ち、まちづくりに対する感度の高い方々と聞いております。今後、学生ならではの発想に基づく意見や価値観を発信していただくとともに、ぜひ皆様から能動的に商店街に飛び込み、地域行事や皆様が企画される課題解決に向けたイベントなどの様々な交流活動に主体的に参加することで、まちに新たな風を吹き込んでいただくことも併せて期待しております。本市といたしましても、今後も引き続き、中心商店街における賑わい創出など、商店街活性化のための取り組みに対し支援に努めてまいりますので、まちなか価値創造施設「fil」及び入居されている学生の皆様が、商店街の皆様をはじめとする地域の皆様方に愛され、まちなかになくてはならない存在となりますことを祈念しております。

## fil project

fil(フィル)は、古い空きビルと駐車場をリノベーションして整備した施設で、まちなかでの活動や人との交流、地域との関わりを求めている学生が住む「シェアハウス」と地域の人やまちに来る人が日常的に利用できる「ランドリー」「庭園」「食堂」で構成されています。1階は地域に開かれた場として、多くの人を訪れる場所であり、交流の拠点でもあります。意欲ある学生と多様な人や事が繋がり、新しい価値が紡ぎ出されるような、まちの居場所を目指しています。



# Activitys Report

## まちなかの美術館「ギャラリー・ミレー」 利用促進会議に参加

9・6(wed)



富山市中央通りに位置する美術館「ギャラリー・ミレー」の利用促進会議に入居者5名が参加しました。既存ファンを大切にしながら、新しい客層や若い世代にも広く利用してもらいたいというギャラリー・ミレーを運営する方々の思いから、filの学生の意見を聞きたいということで開催されたものです。参加した学生は、まず美術館や展示作品の解説などを聞いた後、会議室にて意見交換会に参加しました。参加学生からは、他の美術館でも利用できる合同チケットの提案や、大学生に訴求するためのフォトロケーションの設置、SNSの活用、学生が運営しているyoutubeチャンネルを参考にしたチャンネル作成など具体的な提案も多くありました。会議後学生からは、「運営側の真剣さが伝わった。こんなに意見を聞いてもらえるとは思わなかった。」「利用者数などリアルな状態を教えてください」と思わなかった」などと、良い刺激になったようです。

### ギャラリー・ミレーとは？

ジャン=フランソワ・ミレーをはじめ、コロロ、ドービニー、デュブレなどバルビゾン派の作品や写実主義の先駆者クールベの作品など53点を収蔵。中心市街地の賑わい創出と芸術文化の振興を目的に開設された。作品と展示空間は北陸銀行が提供、富山県、富山市、富山大学、中央通商店街などで構成された運営委員会によって運営されている。



## 10・29 (sun)

## fil× 越中大手市場 トランジットモール



地域のマーケットイベント越中大手市場トランジットモールに入居者3名が出店しアート体験、手作りスイーツ販売、古着販売などを行いました。小雨がふる中、イベントが始まりましたが次第に天気もよくなり、出店した学生と来場者の会話も弾み楽しんでいました。イベントに出店した高長さんは「思ったよりも古着好きのお客さんが来て話が盛り上がった。今度は空き店舗などで期間限定の古着ショップを開いてみたい」と意気込みをみせていました。

### トランジットモールとは？

トランジットモール社会実験とは、車両の通行を制限し、歩行者と公共交通機関のみが運行できる歩行者空間で、富山市が平成29年度から越中大手市場や地域と連携して実施しています。富山市大手町で実施している同実験は、まちのにぎわいをつくりだす取り組み、そして人と人との交流を生み出し、新しい価値を創造していく仕掛けとして注目されています。



# Experience

## 落花生、サツマイモ収穫体験

10・8 (sun)



土に触れる機会も少なかったなかでずっと楽しみにしていたイベント。さつまいもと落花生を収穫しました。落花生を収穫するのは初。実のなり方にも驚きがありました。収穫後は、さつまいもパンや落花生、ハーブティーもいただき、おいしい秋も堪能しました。社員さんの農場への愛情も感じられ、楽しいイベントでした。また機会があればぜひ参加したいです。

小柳 芽吹 (富山大学 薬学部 2年)

## 「越中おわら風の盆」見学ツアー

9・7 (fri)



富山に来て初めての夏。もちろんおわら風の盆については知りません。そんな中でいったおわら。まず、圧倒されました。町中がひとつになって他とは違った雰囲気を感じている。非日常感をあじわえました。富山ならではの夏の風物詩、いつかは自分もおどれるようになりたいですね(笑)

山田 創介 (富山大学 都市デザイン学部 1年)

# Meet@fil

～企業のTOPと語る会～

サポート企業を中心とした企業の経営者と入居学生が、仕事の話、人生の話、まちの話などちょっとした食事をしながらざっくばらんに語りあう会を定期的に開催。業界や会社のお話から、参加した学生へのアドバイスなどをいただきました。

9/25 mon



## 株式会社 寺島コンサルタント 代表取締役社長 寺島 雅峰 氏

立場の高い方とお話しをする機会がないということと、交通インフラに興味があったので、そのような業界の会社がどのような仕事をしているのかが興味があり参加しました。お話を聞いてみて、測量から始まり、提案をしていくまでとても多くの工程があることと、ただ、「作る」ということをゴールにするのではなく、その地域の文化や伝統を深く考え、その先どう使われるかまでを考慮しているのだということを知り、とても仕事の幅が広いということに驚きました。本当にたくさんのお話をいただき、また質問でも就職面接のことなど丁寧に答えいただき、あっという間に時間が過ぎました。後で市民プラザの方に、この会の社長のギャラを伺ったところ、「ノーギャラです」と言われました。衝撃です。本当に貴重なお時間をありがとうございました。

由井 康生 (富山大学 都市デザイン学部 1年)

10/10 tue



## トヨタモビリティ富山 株式会社 代表取締役社長 品川 祐一郎 氏

モビリティ関係、まちづくり計画、交通など富山は先進的という部分があって、その業界に実際に関わっている社長とお話できるということで参加しました。「第2のWoben cityを富山に作りたい」というお話が印象的でした。入学前からWoben cityについては気になっていて、大学の授業で学べるかな?とも思っていたのですが、今のところ授業でも取り上げられず、ネットでもあまり情報が更新されていない状況でした。シェアハウスに入ったきっかけもまちづくりやまちの暮らしなど「リアルな経験」を求めてだったので、Woben cityが富山にできるかもしれないと、ワクワクする気持ちになりました。品川社長は、まさに「有言実行」という印象の方で、一言一言に重みと説得力がありました。自分は古着にもはまっていて、古物商などをとって販売などもしたいと考えています。実は将来古着屋...ということも考えています。自分が好きで通っている高岡の古着屋がありますが、その居心地の良さや、地域になじんで景観や賑わいを作っていたりする様子を見ていてそういった気持ちが芽生えました。品川社長が言われた、「意思をもってしっかりやり続けること」という言葉が心に残っています。学生のうちにまずは少しでもチャレンジしたいと思っています。

高長 佑輔 (富山大学 都市デザイン学部 2年)

10/30 mon



## 株式会社 大和 取締役富山店長 中崎 俊也 氏

今の自分のバイト先が入ってる百貨店のトップの人のお話が聞けるということで参加しました。お話の中で、アルバイト先の仕入れや運営の仕組み、百貨店にはスタッフが200人以上いて様々な仕事をしていることなど知ることができました。地元の八戸市で通っていた好きなラーメン屋が入った百貨店は、改装リニューアルオープンするはずが、そのままつぶれてしまったりしています。今でも賑わっているデパートで働いて、その近くに住んでいられているという状況は当たり前ではなく幸せなことで、地元もこうであればと思いました(笑)。次の日にアルバイトへ行くと、働いている店舗の店長が、この会に参加したことを知っていて、話しかけてくれました。すぐに情報が共有されるいい関係性が築けているのだから、と感じました。中崎店長はとても明るくて、話しやすい印象を受けました。地元愛がありそうな感じがします。百貨店として、インバウンドも必要だと思いますが、それ以上に地域の人のことを考えてサービスを提供しているところが素敵だなと思いました。もし、今度店長とお話できる機会があれば、リニューアルオープンをすると言ってそのままつぶれていくというのは、いったいどんな理由が考えられるのか、ぜひ聞いてみたいです。

西堀 健人 (富山大学 理学部 1年)

# Summer memories



## 第42回 日中学生会議

会議のメンバーとして、香港にしばらく滞在しました。日中学生会議は、「日中友好へ、学生の挑戦」を理念に中国の学生との相互理解を深めることを目的に活動している団体で、3週間の本会議を行っています。議論の時間以外では中国旅行を楽しみました。写真は香港の中心部を散策したときのものです。日中の文化の違いを楽しみながら現地の学生からも多くを学び交流を深めました。8月の気温は富山よりも少し蒸し暑いくらいでしたが、毎日10km近く歩きました。

高崎 未央 (富山大学 教育学部 3年)



## ユニバーサルスタジオジャパン

朝早い電車で、起きる自信がなかった2人は一緒に寝て、朝起こしあいながら出発！スマホを忘れるというハプニングもありながらも、ハプニングは旅の付きもの！とポジティブ精神で乗り切りました。2人とも食べるのが大好きなので、大阪と言えばたこ焼き！とたこ焼きの食べ歩きをし、のちゃん人生初のユニバと一緒に楽しみました！ホテルに帰るといつものフィル空間に戻るのがなんだか変で面白いねって、空間までも楽しめるのは一緒に生活しているからだかなと思います！

小柳 こなつ (富山大学 経済学部 1年) 中島 白音 (富山大学 経済学部 1年)